



賀

院長
五島 一 征

明けましておめでとうございます。昨年、国内だけでなく海外でも相次ぐ風水害などの災害の多い年でしたが、今年こそ、より多くの幸せにあふれた年であってほしいものと願っております。

いざなぎ景気を越える景気拡大局面が続いているとはいっても、庶民には実感に乏しい経済情勢のなか、医療の面においては、診療報酬の引き下げなど、より一層厳しい環

境となっております。しかし、どのような社会情勢になろうとも、中東遠地域の中核病院として、「愛365日」の精神を持って、この地域の皆様に満足と安心をもって受け入れられる、より質の高い医療を提供することに努めていきたいものと存じます。

のような急性期医療を扱う病院にとつても必須となってくる、DPC(包括評価)制度の導入対策としてDPC準備室を立ち上げ、専従職員2名により調査研究が進められています。

また、個人情報保護を徹底するため「個人情報保護規定」と個々の詳細な取扱を定めた「マニュアル」を定め、患者様に安心して医療を受けて頂ける環境作りに努めました。

皆様から寄せられる当院への中核病院としての期待も、今後もさらに高まっていくものと思われれます。

当院は今後も、掛川市そして周辺市町村の二次救急病院、そして急性期の医療機関として高度で安心できる医療を皆様に提供していくとともに、地域内の開業医院との連携を大切に皆様の信頼を深めていきたいと考えております。

まだまだ、多くの診療科で医師不足であり、皆様にはご迷惑をお掛けしております。医師の確保を最優先事項と位置づけ、医師確保に最大限の力を注ぎながら「愛365日」の心で、優れた医療を提供してまいります。

本年もよろしくご指導のほどお願いいたします。

より信頼を めざして 病院を



昨年の業務を振り返って

昨年四月、診療報酬は薬価で1:8%、本体で1:36%併せて、3:16%の引き下げ改訂が行われ、病院を取り巻く医療経済環境はますます厳しくなっております。職員一同、収益の確保と経費の削減に努めはしたものの、63,283千円の純損失となつてしまい、病院経営を取り巻く環境は、極めて厳しさを増しております。

昨年には、当院の救急医療体制を守るため、これまでの体制の見直しをいたしました。これにより、事務職員等による夜間休日の当番と看護師によるトリアージを開始しました。皆さまのご協力により、大きな混乱もなく、順調に稼働しております。

病院経営においても、外部機関による経営コンサルティングを取り入れ、無駄を省いた病院の健全化に努めております。あわせて、今後当院

今年の病院

皆様から寄せられる当院への中核病院としての期待も、今後もさらに高まっていくものと思われれます。

当院は今後も、掛川市そして周辺市町村の二次救急病院、そして急性期の医療機関として高度で安心できる医療を皆様に提供していくとともに、地域内の開業医院との連携を大切に皆様の信頼を深めていきたいと考えております。

まだまだ、多くの診療科で医師不足であり、皆様にはご迷惑をお掛けしております。医師の確保を最優先事項と位置づけ、医師確保に最大限の力を注ぎながら「愛365日」の心で、優れた医療を提供してまいります。